

日に日に寒さが増し、いよいよ冬の到来です。ね。

みなさまいかがお過ごしでしょうか？

先日、ご住職方の勉強会へ参加させて頂く機会がありました。ちょうどその日は無量寿経の冒頭部分をいろいろな文献の解釈を比較しながら読んでいきました。あつちの文献こつちの文献を引っ張り出して、本当に一語一語、時間をかけて読んでいき、教典が何を伝えようとしているのかをひも解いていきます。私たちが日頃お勤めしている「正信偈」や「阿弥陀経」は私たちに仏法を説いている、いわば教科書のようなもので、その一語一語に意味があります。しかし、何千年前も前に書かれたものをそのまま読んでも今の私たちには意味が分かりません。それを分かり易く伝えて下さるのが、ご法座の時のお説教であり、お葬式やご法事などの時のご法話です。お経を称えることも大切ですが、お釈迦様や親鸞聖人が人々に伝えようとされたことを、今の私たちに分かるように伝えて下さることこそが僧侶の役割です。そのために僧侶の皆さん一生懸命に勉強されています。

ご寮内



ヨガの会

十二月十六日(金) 一時半より

平成二十九年年度

光圓寺 御正忌法要

一月十四日(土) 一時半より

講師 前任職 飯田耀朗師

まこと会 新年会

一月二十六日(木) 十一時より

*新年会のご案内は新年明けの一月上旬に各戸へ送付予定です。

皆様のご参加をお待ちしています。

報恩講 ありがとうございます

去る、十月二十七日に光圓寺報恩講が勤まりました。今年もたくさんの方々に参りいただきました。今年もたくさんの方々に参りいただきました。ありがとうございました。

今年のお齋は南観音中、西地区の方々のご接待くださいました。おかげさまで皆、美味しくいただきました。ありがとうございました。

昨年より全て椅子席でのご接待になり、以前よりもみなさんがゆっくりお召し上がりになるようになったようで、うれしく思っています。

ご講師様のお話にもあったように、報恩講のお齋は大切な仏事であり、浄土真宗の文化です。

光圓寺のお齋の接待は、三つの地区の皆さんが、毎年交代で担って下さっています。準備から調理、接待、片付けまで、皆さんが協力して滞りなく行っております。本当にありがとうございます。

これらみな、先人の方々から受け継いで来たものです。これからも大切に皆で守って参りましょう。

【報恩講・秋季永代経法要 坊守覚え書き】

＊ご恩報謝

「～させていただく」

「～せんといけん」

最近の物言いを聞くにつれて、物事の受け止め方が変わってきたと感じます。以前は「法事をさせていただけようと思う」とお願いに来られていたのが、「法事をせんといけんのでお願いします」と来られる。仏事を大切にされていることには変わりない様に見えますが、その根底に流れるご恩報謝の気持ちが薄らいでいるように感じます。

「先に生まれん者は後を導き 後に生まれん者は前を訪え」

この言葉は、中国の高僧である道緯の『安楽集』に書かれています。親鸞聖人は教行信証の結びの部分にこの言葉を引用されています。

さきに生まれた者は後世を生きる者を導き、のちの世を生きる者は先人の生きた道を問いたずねよ、という教えです。

現代の私たちはいろいろな矛盾や困難、また思いもしないような出来事に直面しながら生きています。しかしそれは現代の私たちだけではありません。長い歴史の中において無数の先人が、それぞれの時代において、迷いながら悩みながら生きてきたのです。私たちの前には、先人たちがいます。先人の



歩んできた道があります。人としてどのように生きてきたかの姿があります。人として生きる道を仏教に求め、歩まれた先人の残したものを受けとり、また、後の世を生きる人々に受け渡していくのです。

伝灯奉告法要始まる

去る十月一日より、本願寺では第二十五代専如門主伝灯奉告法要がお勤めされております。

光圓寺からも所属する広陵西組の方々と十月四日に参拝して参りました。遠近各地より多くの参拝があり、くじ運の悪い住職は後ろの席をいつものように引いてしまいました。ご門主のお姿も遠目にしかお目にかかれませんでした。十一名の御門徒様と住職、坊守が尊いご縁に遇わせていただきました。三月七日、五月九日にもお参りします。また、皆さまとご一緒にお参りできれば幸いです。



三月七日(火) 日帰りコース

二泊三日コース 天橋立・三朝
大谷本廟参拝あり

五月九日(火) 日帰りコース

一泊二日コース 伊勢・志摩
大谷本廟参拝なし

詳しくは光圓寺までお問い合わせ下さい。